



MAC 移動ポリシーの構成

この章では、Cisco NX-OS デバイス上でMAC 移動ポリシーを構成する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [MAC 移動ポリシーについて \(1 ページ\)](#)
- [MAC 移動ポリシーの注意事項と制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [MAC 移動ポリシーの構成 \(2 ページ\)](#)
- [MAC 移動ポリシーの構成の確認 \(3 ページ\)](#)

MAC 移動ポリシーについて

MAC 移動ポリシー機能は、ファブリック全体の MAC アドレスの移動をモニタするために使用されます。この機能は、ネットワークの安定性を強化し、レイヤ2フォワードマニピュレータ (L2FM) でのメッセージングおよびトランザクションサービス (MTS) の蓄積を防ぐために、MAC 移動パラメータを変更するオプションを提供します。

デフォルトでは、MAC 移動ポリシーは無効になっています。MAC 移動ポリシーの構成と MTS ビルドアップチェックの有効化の詳細については、[MAC 移動ポリシーの構成 \(2 ページ\)](#) セクションを参照してください。

MAC 移動ポリシーの利点は次のとおりです。

- ループを回避するために、MAC レベルでの MAC アドレス移動の追跡を有効にします。
- L2FM でのクラッシュを防ぐために、MTS の蓄積を定期的に確認します。
- MAC 移動カウントが指定されたしきい値を超えた場合、VLAN ラーニングを無効にします。

MAC 移動ポリシーの注意事項と制約事項

MAC 移動ポリシーの 構成時の注意事項および制約事項は、次のとおりです：

- Cisco NX-OS リリース 10.3(1)F 以降、MAC 移動ポリシーが Cisco Nexus 9300-X Cloud スケール スイッチでサポートされます。
- **mac-move policy** コマンドを使用して MAC 移動ポリシーを有効にすると、デフォルトのパラメータ（120 秒のホールド インターバルで 30 秒間に 6 回の MAC 移動）が設定されます。デフォルトの設定パラメータは変更できます。詳細については、[MAC 移動ポリシーの構成（2 ページ）](#) を参照してください。
- MAC 移動ポリシーと L2RIB 検出は、デフォルト値では共存できません。これらのメカニズムは両方とも重複検出を処理するためのものですが、異なるアプローチを取っています。
- VXLAN 環境で MAC 移動ポリシーが必要ない場合は、有効にしないでください。必要に応じて、L2RIB ポリシーまたは MAC 移動ポリシーのデフォルト値を変更してください。
- L2RIB 検出は、**l2rib dup-host-mac-detection <mac moves threshold> <detect-interval>** コマンドを使用して変更できます。
- MAC 移動ポリシーと L2RIB 検出の両方が構成されている場合、次の動作が観察されるようになります。
 - L2RIB 検出が L2 ポリシーより小さい場合、L2RIB 検出のみがトリガーされます。ただし、L2 ポリシーはトリガされません。
 - L2RIB 検出が L2 ポリシーと等しい場合、L2 ポリシーまたは L2RIB 検出のいずれかがトリガされます。ただし、これらのポリシーがトリガされる順序は保証されません。
 - L2RIB 検出が L2 ポリシーより大きい場合、L2 ポリシーのみがトリガされます。ただし、L2RIB 検出はトリガされません。

MAC 移動ポリシーの構成

この手順では、スイッチの MAC 移動ポリシーを有効または無効にします：

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] mac-move policy {[move-threshold<thresh>]} {[detect-intvl<d_intvl>]} {[hold-intvl<h_intvl>]}**
3. **[no] mts-buildup check {[mts-percent<percent>]} {[detect-intvl<d_intvl>]}**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	[no] mac-move policy {[move-threshold<thresh>]} {[detect-intvl<d_intvl>]} {[hold-intvl <h_intvl>]} 例 : <pre>switch(config)# mac-move policy move-threshold 6 detect-intvl 30 hold-intvl 120</pre>	MAC 移動ポリシーを有効にします。 オプション no は、MAC 移動ポリシーを無効にします。 • thresh : 最大許容移動。範囲は 2 ～ 4096 で、デフォルト値は 6 です。 • d_intvl : 動きを追跡する間隔。範囲は 30 ～ 3600 で、デフォルト値は 30 です。 • h_intvl : 学習を無効にする間隔。範囲は 120 ～ 360 で、デフォルト値は 120 です。
ステップ 3	[no] mts-buildup check {[mts-percent<percent>]} {[detect-intvl<d_intvl>]} 例 : <pre>switch(config)# mts-buildup check mts-percent 40 detect-intvl 60</pre>	mts-buildup チェックを有効にします。 オプション no は、mts-buildup チェックを無効にします。 • percent : MTS ビルドアップのパーセント値。範囲は 10 ～ 50 で、デフォルト値は 40 です。 • d_intvl : MTS ビルドアップをチェックする間隔。範囲は 60 ～ 600 で、デフォルト値は 60 です。

MAC 移動ポリシーの構成の確認

MAC 移動ポリシー構成情報を表示するには、次のいずれかの作業を実行します。

コマンド	目的
show mac-move policy	MAC 移動ポリシーに関する情報を表示します。
show mts-buildup check	mts-buildup チェックに関する情報を表示します。

次の例は、**show mac-move policy** コマンドのサンプル出力を示しています。

```
switch(config)# show mac-move policy
MAC move policy enabled = TRUE
MAC move policy threshold = 6
MAC move policy detect interval = 30
MAC move policy hold interval =120
switch(config)#
```

次の例は、チェックの有効時の **show mts-buildup check** コマンドのサンプル出力を示しています：

```
switch(config)# show mts-buildup check
MTS buildup check enabled =TRUE
MTS check percent =40
MTS check interval =60
switch(config)#
```

次の例は、チェックの無効時の **show mts-buildup check** コマンドのサンプル出力を示しています：

```
switch(config)# show mts-buildup check
MTS buildup check enabled =FALSE
ppwrks5(config)# show mac-move policy
MAC move policy enabled = FALSE
switch(config)#
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。